令和6年度第3回練馬区文化財保護審議会会議録

- ◆ 開催日時
令和6年12月11日（水）午後2時～午後4時
- ◆ 開催場所
練馬区役所 本庁舎9階 会議室
- ◆ 出席者
出席委員5名（会長、ほか4名）
区側出席者4名（文化・生涯学習課長、ほか職員3名）
- ◆ 議事
令和6年度指定・登録文化財答申案の審議
- ◆ 公開可否
原則公開（傍聴人：0人）
- ◆ 配付資料
令和6年度練馬区文化財保護審議会答申案
練馬区文化財保護条例
練馬区文化財登録・指定基準
- ◆ 事務局
練馬区 地域文化部 文化・生涯学習課 伝統文化係
Tel 03-5984-2442

会議の要旨

<会長> 開会の挨拶

<事務局> 会議の成立について

<会長>

それでは、次第に基づき進めます。

次第1「審議事項」です。今回は現地調査ということで、三宝寺山門をみて、詳細な説明をいただきました。本日は、答申案の審議を行います。本日の審議を踏まえて修正した答申を、次回の文化財保護審議会にて、教育長に答申することになります。資料の確認と説明を事務局からお願いします。

<事務局>

先日、答申説明書(別紙)案と練馬区文化財保護条例、練馬区文化財登録・指定基準をお送りしましたが、本日席上に、答申(鑑文)案と三宝寺の写真をお配りしています。三宝寺の写真は、答申説明書(別紙)案の「保存状態」の説明の中に、「袖塀は後年設置したもの」との記載があり、その参考資料としてご用意したものですので、後程説明を行います。次に、答申(鑑文)案ですが、答申説明書(別紙)案の表紙になる鑑文です。指定文化財とする、登録文化財を解除する、と答申する形で作成していますが、答申説明書(別紙)案を先にご審議いただいてから、ご覧いただければと思います。

(答申説明書(別紙)案について説明) 第2回審議会でもいただいたご意見に加え、文章全体を再整理しています。袖塀については、前回の現地調査の際に、後に設置したものであるという

ご説明がありました。本日お配りした写真は、大正期と昭和初期の絵はがきですが、その当時は袖塀がなかったことが確認できます。以上、ご審議よろしく願いいたします。

<会長>

ただいまご説明のありました説明書について、ご質問ご意見のある方はよろしく願いします。

<委員>

何点かあります。1点目、(1) 概要の1行目に「左右に袖塀をつけている」とありますが、いつ頃かということが書かれていません。写真を見せていただいたとおりですので、誤解を避けるために「後補の袖塀をつけている」と記載してはいかがでしょうか。

<事務局>

ありがとうございます。

<委員>

2点目、(1) 概要の5行目に「大斗の上柱（うわばしら）芯上」とありますが、大斗の上に柱はありません。「大斗の上、柱芯上」としてください。

<事務局>

わかりました。

<委員>

3点目、10行目に「柱頭（はしらがしら）」とルビがありますが、あまり聞いたことがありません。調査報告書では柱頭上（ちゅうとう）という一般的な言葉のつもりで書きました。

<事務局>

「柱頭」のルビを修正します。

<委員>

次のページの1行目、「彩色は影を潜めながらも高い装飾性を特徴としている。しかし、本山門の装飾性は一定の抑制を保持しており」という箇所について、「装飾が抑制を保持している」という言い方が、あいまいでよくわかりませんでした。これは木割りに従っていることを書こうとしたものでしょうか。

<事務局>

先生の調査報告書を読ませていただいて、江戸時代後期の社寺建築では、彫刻も含めて、一般的に過度な装飾があるのが特徴だけれども、この山門は、御成門であることを意識したからこそ、格式高くというか、過度の装飾を抑えたような造りとなっている。これがこの山門の特徴である、という表現として置かせていただきました。さらに言うと、指定の理由も同じような形で報告書から引いて来ていて、一般的によくある江戸時代後期の社寺建築では見られないような、この山門特有の特性があるだろう、という点に歴史的意義を見出し、理由にも書かせていただいたという状況です。

先生の調査報告書の「三宝寺山門の価値」から、「三宝寺山門の彫刻は抑制が効き全体を保持している。」という文言を持ってきたものです。木割りや装飾性に、この建物の特徴があると思います、事務局で文言を吟味した結果、このようにいたしました。

<委員>

そうなのですが、この「装飾性は一定の制御を保持しており」という文章では、意味が明確ではありません。確かに、木割りについては完璧ですので、大工が規矩術を使っているということはできます。装飾については、制御している装飾と言われてもわからないので、難しいですよ。

<会長>

建築のことですので私もわからないところはあるのですが、美術工芸品の場合でも価値づけをするときにまず、その時代にはこういった特色がある、ここでは高い装飾性を特徴としているのが江戸後期の特色なのだ、という全体的な基本を押さえた上で、この作品独自の見どころはどこにあるかを書こうとします。江戸時代の絵画などで装飾性を深めていった結果、歯止めが利かなくなっていることがあるけれども、今回の場合、この山門はそこまでではない、という気持ちでお書きになったのかなと私は思いました。

区として指定文化財の価値を説明する場合は、一步引いて、高い装飾性を特徴とする江戸後期の社寺建築の特色をよく表したものである、というような書き方で良いように思いますが、いかがでしょうか。

<委員>

その方がいいと思います。

<事務局>

一定の抑制を保持していると表現するのはやめて、江戸時代後期の特徴である高い装飾性がみられるといった形にしましょうか。

<会長>

次の「御成門」であることを意識して建てられた、という箇所はどうでしょうか。

<事務局>

その前の、1 ページ目の後段の家光が来た伝承があるという部分で、「御成門」として造られたことがうかがわれる、と一度記しています。ここでは「御成門」については絡めないで、江戸時代後期の社寺建築では高い装飾性があり、本山門でもその特徴が引き継がれているといった表現にしていければと思います。

<委員>

それでよろしいのではないのでしょうか。「御成門」が二度出てくるのはくどいですよ。

<事務局>

「しかし」から始まる一文を削除するというのでよろしいでしょうか。

<会長>

削除すると同時に、その前の文章を少し補足する必要があるかと思います。

<委員>

江戸時代後期の社寺建築の高い装飾性というのは一般論で、そういう特徴がありながらも、この山門は一定の抑制を保持しているという文脈ですよ。

<事務局>

事務局が調査報告を参照、類推して、なぜこう考えたかという点について、少しご紹介をさせていただければと思います。文章をそのまま読み上げます。「江戸後期建築では素木の彫刻で飾る傾向があり彩色は影を潜める。ここでは装飾性の高い詳細な演出があり、彫刻は構造柱を除く建物全体へと覆尽くしている。個々の彫刻は写実性も高く、平穩で安定的な当時の世界観や精神性を表している。唐獅子や象は聖域を守護する意味があり、獏は平和の象徴と捉えられる。江戸後期には彫刻が豊かになり過剰なまでの装飾を指摘されることがある。しかし、三宝寺山門の彫刻は、抑制が効き全体を保持している。御成門としての重さを、大工、彫刻師が感じ仕事したことと考えられる。」

<委員>

このように前後関係があればわかるのですが、「抑制が効いた」というのがポンと出てきてもちょっとわかりません。

<事務局>

確かに前段の部分で、装飾性の高さについて相当説明がなされていました。

<委員>

ゴテゴテにはなっていないことに対して、ある程度抑制が効いたという言い方をしましたが、抽象的であり良くないかもしれません。

<事務局>

それでは、前段の部分から、「江戸後期建築では彫刻は構造柱を除く建物全体へと覆尽くす傾向にあるが、本山門についても同様の特色を引き継いでいる」といった表現ではいかがでしょうか。

<委員>

この文章はおそらく、御成門であることを補強するために書いているわけですね。もう一つには、江戸後期の時代性を説明するために書いているところもあると思います。御成門のことは先に説明したから繰り返さないというのであれば、時代の特色についてのまとめ方にするしかないと思います。

<会長>

2 ページの最初にある「江戸時代後期の社寺建築」、これが何なのかというと、「彩色は影を潜めながらも」という言葉はあってもなくても良く、「彫刻で飾る傾向がある」ということですよね。飾る傾向があるのだけれど、その彫刻は過度な装飾にまでは陥ってなくて、ということを書きたいのですが。

例えば、江戸時代後期の社寺建築は、素木（そぎ）の彫刻、私の分野では素木（しらき）ということが多いのですが、素木（しらき）の彫刻で、建物全体を飾る傾向がある。この山門も、そのような時代的な特色をよく表しているが、彫刻…。彫刻は過度に陥らないということは何かうまく言えたら良いのですが。

<委員>

かなり高い装飾性というのが何を指すのか。一般論としては装飾がたくさん付いていることを、高い装飾性を有しているとして良いと思うのですが。

<事務局>

このあたりを参照しながら組み立てをした結果として、抑制を保持している表現を残したのですが、江戸時代後期の社寺建築として高い装飾性を有しているという範囲に今回の山門も入っているのであれば、抑制といった細かい言葉を入れなくても、まさに江戸時代後期の特徴であるという表現で良いと思っています。

<会長>

私は彫刻専門ですが、抑制が効いているという言葉は、調査報告書の文章の流れの中ではわかるのですが、彫刻の表現に抑制が効いているとか効いていないというのは、普通はあまり使いませんので、そこで少し引っかかる場所が出てくるのだらうと思います。先ほどの続きの文章は、全体に統一された表現が見られ、といった感じになるのかなと思います。どこかが破綻しているということではなく、全体にその統一的な作風がみられて、製作した大工や彫刻師の意識がうかがわれるという感じになるのでしょうか。こういうのは、作品解説を書くときでも最後になる、なかなか悩ましいところです。

「御成門であることを意識して」の部分は、前の文章に出ているわけだから削除して。装飾は華美だけれども行き過ぎたものにはなっていないというところに、この山門の価値があることをおっしゃりたいのだと思うのです。

<委員>

「しかし」以下は削除して良いのではないのでしょうか。

<事務局>

前段は江戸時代後期の社寺建築の特徴の部分を使いながら、後段の本山門は、という部分については宿題とさせていただきます。

一つ質問させてください。江戸時代後期の社寺建築の特徴として、装飾性と木割りがあるように思います。木割りについては、前ページの後半で記載していますので、ここでは装飾について記載すればよろしいのでしょうか。

<委員>

いいと思います。

<事務局>

ありがとうございます。それでは文章については宿題ということでよろしくお願いします。

<委員>

それでは、まだありまして次なのですが、(4)保存状態です。昭和28年に軒先と小屋組の一部が取りかえられ、とありますが、これは何に書いてあったのでしょうか。

<事務局>

『三寶寺 六百年の歴史と文物』に記載があります。

<委員>

『三寶寺 六百年の歴史と文物』による、と出典を明記してください。

次に、7 指定の理由です。ここにも、抑制の効いた造りという言葉があります。大工技術のことだと思いますので、「伝統を引き継いだ規矩術によって建てられた」ではいかがでしょうか。

<事務局>

そのように修正します。

<委員>

(1) 概要の最初ですが、主語が抜けていますので、冒頭に「本山門は、」を入れてください。

<委員>

1 ページ目の下から3行目、「江戸幕府の将軍徳川家光」とあるところを、「江戸幕府の三代将軍徳川家光」としてください。

<委員>

(3) 建築の年代、『三寶寺誌』の引用にある文政十年の後ろに、西暦を(1827)と入れた方がわかりやすいと思います。

<事務局>

引用文ですが、入れてよいのでしょうか。

<会長>

『三寶寺誌』を引用するだけでなく、その後に、「以上のことから、この建物は文政10年(1827)に建てられた可能性が高い。」とした方がよいと思います。

<事務局>

承知しました。

<会長>

一つ教えていただきたいのですが、(2)沿革のところ、三宝寺は文明9年(1477)の石神井城落城後に当地に移転したとありますが、応永元年(1394)の草創時はどこにあったのですか。

<事務局>

石神井町5丁目の禅定院の近くと言われています。現在地と近い距離です。

<会長>

禅定院の近くと言っても、わかる人は少ないと思います。私が書くとしたら、現在地の東北約〇〇メートルの地に、といった書き方をします。

<事務局>

承知しました。「応永元年(1394)に、現在地の東北約〇〇メートルの地に建てられた真言宗の寺であり、」ということによろしいでしょうか。

<会長>

真言宗の寺というのは、ここで初めて出てきますが、他と何か関わりがありますか。

<事務局>

真言宗の社寺建築の特徴というのはありますか。

<委員>

宗派別に研究されている方はいらっしゃいますが、特に強いものはありません。

<事務局>

真言宗は削除した方がよいでしょうか。

<委員>

一般的に、何宗であるかは、どこかで記載があった方がよいと思います。

<事務局>

現在真言宗である事実と、草創の地から現在地へ移転したという伝承については、文章を切り分けて記載した方がよいようにも思われます。

<会長>

ここでは真言宗を取りましょう。

(2)沿革の2段落目、「なお、本寺には～がある。」の箇所ですが、「なお、本寺は～を所有する、所蔵する。」としてはいかがでしょうか。

<事務局>

承知しました。

<委員>

今のところに、「三宝寺(真言宗)」とか、入れてはいただけないでしょうか。

<会長>

私も時々迷うのですが、例えば、三、四十年前の若い時に、練馬区で悉皆調査、簡単な所在地確認調査をさせていただきました。また今回、府中市で、全部のお寺の仏像などをまとめました。そうした際に、現在の宗派名を書くのか書かないのかっていうのは、真言宗といっても古義と新義があって、新義の方は智山派と豊山派とそれも書くのかどうかとか、日蓮宗だと非常にたくさんあるわけですから。おそらく先生がおっしゃっているのは、真言宗なのか、浄土宗なのかという程度のことだと思いますが、それをどこに書くか。

所有者名の脇に、「三宝寺（真言宗）」と添えるのはそぐわないと思います。書くとなれば、解説の中になると思います。(2)沿革の最初に、「現在真言宗の三宝寺は、」というように書けば親切だと思います。

<事務局>

現在は真言宗であるといった書き方をすると、以前は違った可能性があるといった、別の意味が入ってくるような気がします。「真言宗三宝寺は」といった形にできたらと思います。

<会長>

主要参考文献のところに今回の調査報告書が出ていますが、これは公刊されたものではありませんよね。未公刊と記載してください。

<事務局>

承知しました。

<会長>

それでは、三宝寺の山門については、少し宿題が出ましたけれども、それ以外の点は審議を尽くしたということで進めたいと思います。

次の、登録解除の件については、ここでご説明をいただけるのですか。

<事務局>

第1回で詳細を説明したとおりです。

<会長>

わかりました。それでは説明書の審議は以上になります。次回の審議会で、三宝寺山門を指定文化財とすること、金乗院山門の登録を解除することについて、答申を行いたいと思います。続いて、答申案(鑑文)案についてはいかがでしょうか。ご質問等ありましたらお願いします。ないようでしたら、審議を終了します。

続きまして、次第2の連絡事項について事務局からお願いします。

<事務局> 次回の開催連絡

<会長>

本日はこれにて閉会します。ありがとうございました。